

ミチノクフクジュソウ	<i>Adonis multiflora</i> Nishikawa et Koji Ito	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	根茎があり、多数の鬚根を出す多年草。茎は直立して分枝する。高さは花時に10-15cm、果時には20-25cmになる。葉は有柄で菱形~卵形で2回羽状に細裂する。茎葉は互生する。花期は4-5月。茎頂に径3-5cmの鮮黄色の花を3-4個つける。萼片の長さは花卉の半分~2/3。	
生態的特徴	丘陵地の日当りのよい草地に生える。	
分布状況	本州、九州、朝鮮、中国に分布する。県内では県北のかなり広い地域に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北及び県南の一部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	
		※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責:佐藤和良